

## 陳旧性リスフラン靭帯断裂に対する再建術

稲波脊椎・関節病院スポーツ関節センター 山口 玲  
内山 英司

【目的】陳旧性リスフラン靭帯断裂に対し自家腱を移植した再建術を行ってきたので、その臨床成績を報告する。

【手術方法】リスフラン関節を展開し、内側楔状骨、第 2 中足骨基部間を整復し中空スクリューで固定。両骨に骨孔を作成し、短腓骨筋より採取した自家腱を誘導し、骨表面でインターフェランススクリューを用いて固定することで、リスフラン靭帯背側成分を再建する、2 週間のギプス固定後、荷重を許可し、再建術後 8 週で中空スクリューを抜去した。その後可及的に走行を開始した。

【対象】2001 年から 2016 年までの間に 5 例の再建術を行った。男性 1 名、女性 4 名。受傷より保存治療を 4 ヶ月以上行うも疼痛が改善しなかったアスリート 3 例（平均 29 才）、見逃され陳旧化した学生クラブ活動選手 2 例（平均 16 歳）である。

【結果】現在経過観察中の 1 例を除き、4 例は疼痛が消失し競技に復帰した。走行開始は平均 10 週で可能となり、練習参加は平均 3 ヶ月。完全復帰には平均 8 ヶ月を要した。

【結語】再建術後荷重時痛が消失し競技に復帰し、復帰後も数年にわたり競技の継続が可能であった。再建は表層の背側靭帯のみであるが、長期にわたり良好な成績であった。